

II 特別連載 II

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第253回

※現在、さくらサイエンスプランは新型コロナウイルスの感染防止のため、今年度のプログラムの実施を延期しています。

静岡大学の活動報告



池田 浩也
(静岡大学
総合科学技術研究科
工学専攻教授)

インドの大学生が、日本の
研究と文化・技術発展に触れる

さくらサイエンスプランの支援をいただき、2020年2月3日から9日まで、インド・アンナ大学から教員1名と学生10名を、静岡大学浜松キャンパスに招けいしました。今回来日した10名の学生はもろん初来日でしたが、そのうち9名が初めての海外渡航でした。キャンパス訪問初日(2月4日)は、川



大学生協食堂にてランチ。日本食に挑戦!

田・工学専攻長(学部・修士課程)、原・創造科学技術大学院長(博士課程)から各部署の紹介があり、午後には本学施設である高柳記念未来技術創造館と浜松キャンパス共同利用機器センターを見学しました。また、国際交流推進機構を訪問して、静岡大学における国際交流に関する説明を受けました。アンナ

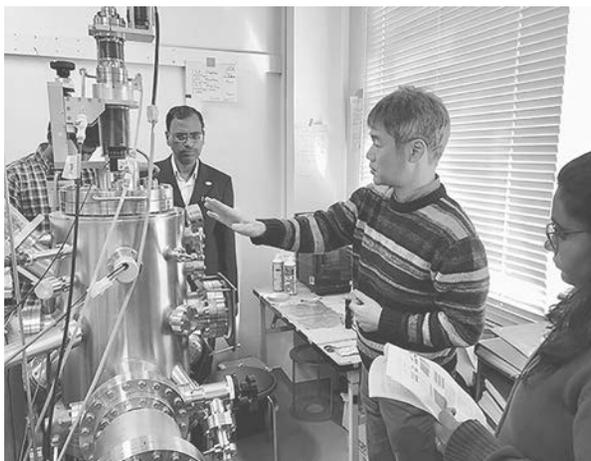
プログラム	
1日目	日本到着 中部国際空港から浜松へ移動
2日目	オリエンテーション、国際交流推進機構訪問 高柳記念未来技術創造館など見学
3日目	研究室訪問(3研究室)
4日目	学生ワークショップ
5日目	スズキ記念館、方広寺 ヤマハイノベーションロード見学
6日目	研究室訪問(1研究室)、市内ツアー
7日目	浜松駅前バスターミナルにてお別れ 中部国際空港から出国

大学と静岡大学は2013年から大学間協定を結んでおり、これまでに10名の博士課程学生を創造科学技術大学院に迎えています。

これまでの博士課程学生の所属が、主としてデバイス応用に向けた材料科学分野の教員の研究室という経緯もあって、2月5日の研究室見学は工学部電子物質科学科の研究室を訪問しました。今回は訪問する研究室の数を減らして、単なる装置の見学ではなく、教員から研究内容の説明を直接受ける時間を十分に設けました。こういった観点から何を目標にどのようなように実験を進めているかを理解してもらおうための試みでしたが、彼らの様子から実りある訪問になったと思われず。

2月6日に行った両大学の学生によるワークショップでは、学生たちと教員による活発な議論が行われました。お互いの研究内容をより深く理解できるとともに、分野の異なる研究発表もあり、大いに刺激を受けました。

翌日は、方広寺で日本の文化に触れた後、ヤマハイノベーションロードとスズキ歴史館を見学して、日本の代表的な企業の歴史を学びました。日本における工業の発展や技術を垣間見ることができて、感銘を受けた学生が多かったようです。夜はインド料理店においてバンケットを行いました。研究室見学に協力していただいた教員も参加して、今回の訪



工学部・電子物質科学科の研究室を訪問。研究の目的・方法・成果を学ぶ



国際交流推進機構では、静岡大の国際交流・留学について質問攻め

間を振り返りつつ楽しいひとときを過ごしました。

キャンパス訪問最終日は、研究室見学をした後、今回の訪問についてレポートを作成してもらいましたが、参加した学生にとって大変意義深い経験になったようです。彼らのアンケートには再来日を希望する回答が多く見受けられ、留学生・研究者としてぜひ戻ってきてほしいと思います。

最後に、アンナ大学と静岡大学のさらなる交流発展の貴重な機会を与えていただいた、さくらサイエンスプラン並びに催行にご尽力いただいた皆さまに深く感謝いたします。おかげさまで、アンナ大学の修士課程を修了した学生1名が、文部科学省国費留学生として



ヤマハインベーションロードの記念撮影コーナーで思い出作り



学生によるワークショップでは他学生の発表に真剣に耳を傾ける

2021年度4月より静岡大学の博士課程(私の研究室です)に、新たに加わることになりました(実際には2020年度10月入学の予定でしたが、コロナのため半年延期しております)。また、アンナ大学との共著論文も現在投稿中で、研究面での結びつきも一層強くなってまいります。

静岡大学工学部にはシヨート・ステイ・シヨート・ビジット(SSSV)という研究室単位での国際交流プログラムも用意されており、今後はこのプログラムを利用して、日本人学生を連れて先方を訪問し、学生に、海外に目を向ける機会、異文化に触れる機会を与えつつ、交流をさらに深めていきたいと考えております。